

2023

2024

12/8(金)▶3/31(日)

第25回朗読会関連企画展

マンガで読む永瀬清子

詩人永瀬清子物語 わがたてがみよ、なびけ



『詩人・永瀬清子物語 わがたてがみよ、なびけ』
マンガ 藤井敬士 シナリオ 和田文雄

今春、永瀬清子の生涯がマンガになりました。永瀬清子が誕生し詩人を志す過程を中心に描いており、赤磐市立図書館などで読むことができます。

この展示では、マンガを描くのに使われた資料とマンガ『詩人永瀬清子物語 わがたてがみよ、なびけ』とともに、永瀬清子の生涯を紹介します。

やむをえず中止や延期、内容変更となる場合があります。
会場内でのマスクの着用は個人の判断に委ねます。手指を清潔に保つように努めてください。
発熱等の症や、ご体調がすぐれない場合は、ご来室をお控えください。

問い合わせ先

赤磐市教育委員会熊山分室 tel 086-995-1360

URL <https://www.city.akaiwa.lg.jp/annai/kyouikuinkai/kumayama/tenjisitu/index.html>

時 間 午前9時～午後5時
休 日 月曜日 12月28日～1月4日
入 館 料 無料
場 所 永瀬清子展示室
(赤磐市くまやまふれあいセンター2階
・岡山県赤磐市松木 621-1)

※赤磐市立中央図書館1階の歴史コーナーで、本展示の資料の一部を複製し展示しています。

◆交通案内



◇ 山陽自動車道
山陽・和気ICから車で約15分
◇ JR熊山駅から徒歩約20分



くわしくはHPで

永瀬清子展示室



目次

第1章	清子誕生	4
第2章	幼い日の思い出	12
第3章	文学少女	20
第4章	詩人を志す	26
第5章	詩人を宣言	34
第6章	詩人誕生	42
第7章	「雨ニモマケズ」発見	52
第8章	苦難の時代	60
第9章	自然に生きる	72
第10章	生涯現役の詩人	88
資料編		98

清子誕生 一九〇六（明治三十九）年二月十七日

私の生れた時は二月の半ばで大変暖い日だった由。生れたばかりの私は縁側の日あたりで生湯をつかわされ、そのままあけ放った所で寝かされていたと云う。母が産後はじめて向こうの山ざわをながめた時、もう梅の花がうすあかく咲いていたと語った。よほど暖冬だったのだろう。

（永瀬清子「思い出す日々（一）」——梅咲く頃に生れて『女の新聞』第六八号 一九六四年二月五日）



第1章 清子誕生

清子の母・永瀬八重野の日記より 1906（明治39）年2月19日

父・連太郎が、四つの名前を候補に挙げ、その中からよいものを選ぶようにと手紙に書き送ってきたので、母・八重野は、それらの中でも「清」がよいのではないかと思われたと記している。

※永瀬清子の戸籍名は「清」



名前の由来

第1章 清子誕生

私の通った金沢の英和幼稚園は、ミッションスクールの北陸女学校の付属幼稚園だったので、カナダ人の優しいミス・ジョンストン先生が園長であった。先生は他の外人の先生たちと一緒にすこし離れた女学校の一角の建物に住んでいらして、窓にはきれいな白いレースのカーテンが見えていた。

（永瀬清子「幼かりし日々」『すぎ去ればすべてなつかしい日々』福武書店 一九九〇年六月）

金沢の英和幼稚園に通う



第2章 幼い日の思い出

大名のいぶきがまだどこかに生きている金沢を去り、名古屋へ来てはじめて私の近代ははじまったと云える。今よむ『上田敏詩集』は、それまでの苔色とすっかりかけ離れたカラフルな世界なのであった。（中略）今生きている人間の感情と心が、もって生きたままに光と影であるような文学が私にはいるのだと思われた。

（永瀬清子「渦巻の川——わが詩作の五十年」『谷川俊太郎選『永瀬清子詩集』岩波文庫 二〇二三年十月）

『上田敏詩集』を読む



第4章 詩人を志す